

解答

一

- (1) ふぶんりつ (2) おうりよう (3) みようり
(6) 採〔る〕 (7) 弁解 (8) 明朗 (9) 護衛
(10) (4) かいそ (5) かんぱ
禁断

二

- (1) オ (2) イ (3) ア (4) エ (5) ウ

三

- 問一 ア
問二 ア
問三 述語を想像させる効果がある。
問四 エ

四

- 問一 1 イ 2 エ 3 ウ 4 ア
問二 一体
問三 しかし、単純に不便な社会になったとも思えないのである。
問四 相手を察して、真意を汲もうとすること。
問五 ア× イ× ウ○ エ× オ○ カ○
問六 舞台上に引き寄せられる
問七 エ
問八 古い静かな池、池の中に飛び込む蛙、ただ静かに波紋が広がっている
問九 静かさ

五

- 問一 エ
問二 オ
問三 石
問四 ウ
問五 キオスクのための地図をわかりやすく書いたこと。
問六 浮かれた足どり
問七 イ
問八 ア
問九 エ

解説

三

- 問一 かばちやのつるが、懸命にはい上がり、葉をひろげる姿がつづられているので、選択肢アの「しつかり」がふさわしいことがわかります。

四

- 問四 【2】の前にある「上と横に動きが感じられて、」という記述から、「立体的」という選択肢エが選べます。
問七 —線部①の前に着目します。「だが、それをぐつと堪えて相手を察する。相手の真意を汲もうとする。」とあり、相手の呼吸を攔むトレーニングになる内容が書き表されているので、わかりやすくまとめます。
—線部④の後に、散文と韻文の違いが述べられています。散文は読めば内容をすべて受け取ることができ、

自分で想像力を膨らませなくても、内容がわかるように書くものであり、韻文は、受け手の想像力によって、その内容さえ変わることもあるということから、一言で言うところ「想像力」の違いであることがわかり、最もふさわしいものは選択肢工になります。

問四

——線部①の後にぎくりとした理由が述べられています。「なにしろ、今回はキオスクというお荷物がくっついてくるのだ。いつもなら、屋根にのぼる日は朝からご機嫌のわたしも、キオスクのことを考えると心は重い。」という記述から、「キオスクも一緒に、屋根のぼりをしなくてはならない」という記述を含む選択肢ウが適切です。

問八

直前にわたしがキオスクと目が合ったときの様子が描かれています。その目は逃げたい、楽なところに帰りたいと言っていて、キオスクのおびえている様子をわたしが見ていられず、目をそらしたことから、選択肢アがふさわしいことがわかります。